

一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 166号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期23年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4600日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は294名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



こしがや無所属の会の行政調査。長岡京・可児・大垣から見た、越谷のこれから

5月12日から14日の3日間、会派「こしがや無所属の会」は、京都府長岡京市、岐阜県可児市、岐阜県大垣市へ行政調査に行ってきた。調査テーマは三つ。「保育コンシェルジュ」「議会改革」「3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化」である。

最初に訪れた長岡京市では、国の利用者支援事業・特定型である「保育コンシェルジュ」を令和5年度から実施しているとのこと。保育サービスの情報提供と、保育ニーズと空き枠のマッチングを担い、特に希望が集中する1歳児の入所調整が大きな課題であるという。相談は市役所窓口や電話だけでなく、地域子育て支援セ

ンター、公民館での出張相談、さらにLINE相談も導入し、時間や場所を問わず相談できる体制を整えている点が印象的であった。就園先を選ぶ際には「親の利便性」だけでなく「子どもがどんな環境で過ごすか」という視点を丁寧に伝えており、民間園とも情報共有しながら、未就園児の遊び場や子育て全般の悩みにも伴走しているのである。

次に訪れた可児市では、「市民意見の反映」を中心理念とした議会改革の取組を学んだ。市民意識調査を継続的に行い、「議員の活動内容を知らない」という声が6割を超える現状を直視し、広報紙の刷新、SNS、ケーブルテレビなど多様な媒体での発信を強化している。春と秋の議会報告会ではテーマ別の少人数討議を行い、参加者全員から意見を聴き、それを委員会で調査研究し政策提言につなげる循環を制度として回している。高校生議会や地域懇談会など、世代や地域を超えた対話の場を年間計画として位置づけている点も、本市にとって大きな示唆であると感じた。

最後に大垣市では、「3D都市モデル」の整備と活用について話を伺った。中心市街地の回遊性低下という課題に対し、歩行空間の再整備や案内サインの配置検討に3D都市モデルを活用しているのである。国庫補助を活用し、令和6年度に約1300万円でモデル整備、令和7年度に約2200万円でユースケース整備を行っている。駅から城址までの大通りを広場化したイメージ動画や、揖斐川決壊時の浸水シミュレーションなど、まちづくりと防災の両面で「見える化」を進めている点は、平坦な地形と河川に囲まれた越谷市とも共通する課題であり、応用可能性が高いと受け止めた。

三市の取組はいずれも、「市民の暮らしにどう役立つか」という視点が一貫していた。本市に持ち帰るべきは、制度そのものの真似ではなく、その背後にある「市民に開かれた仕組みをつくろう」という姿勢を痛感した。

(5月12日、13日、14日)

目の前で倒れ込んだ、若い女性。ペットボトルの水で回復

今朝の駅立ちは、北越谷駅東口で何時の様に午前6時前から市政レポートの配布を開始した。午前7時前に、自民党の衆議院事務所の秘書さんが、看板を持参して今日は、(裏へ)

かさなりましたね、と話しかけられた。エーブックィング？駅立ちの日程について、各党の5月の一覧表を頂いており、それを見て駅立ちを実行しているのですが、見間違えた様ですね、と応じた。すると大丈夫です、西口に回りますので、との返事だったので、すみませんと応じたが、看板や幟はここ東口に置いてください、と対応した。

午前7時30分頃バス停から降りて来た女性が数歩歩いて、歩道横にうずくまった。次々と通勤客が通り過ぎて行く雑踏の中、日差しが直接あたる場所でもあった。私の立ち位置から数メートル先のため、直ぐに駆け寄って声を掛けた。大丈夫ですか、ここは日差しで暑いので奥の日陰に移動しましょう、と。直ぐに立ち上がり移動して再びこの場所に座り込んだ。水を飲みますか、と尋ねたら、はい、との返事。

一緒に市政レポートを配布していたチーム白川の吉田理子さんをお願いしてコンビニから水のペットボトルを買ってきてもらい、この女性に手渡した。この水を口に含みしばらくしたら立ち上がって改札に向かわれた。

大したことにならなくて安心したが、駅立ちでは時々具合が悪くなる市民に出くわす。時には1時間あまり介抱することもあるので、今朝は良かった、と思いながら午前8時30分過ぎまで活動を続けた。（5月19日・火曜日）

6月市議会の市長提出議案について事前の会派説明会が開かれたが。

6月1日から越谷市議会定例会が開催されるため、恒例の市長提出議案の事前説明が所管の担当部・課長から行われた。その中で特に以下の3点のテーマは大きな関心事となっている。

① 越谷アルファーズ新アリーナ整備の現状について

越谷アルファーズがレイクタウン市有地で進めてきた新ホームアリーナ整備事業について、主要出資者の後退により事業計画の策定が遅れ、当初スケジュールの見直しが避けられない状況となっている。クラブは新たな出資者の確保や別スキームの検討を進めているが、現段階では具体的な事業計画案の提示には至っていない。市は、9月議会での支援判断に必要な計画提示を求めてきたが、クラブ側は「来期に向けた重要な時期であり、現段階での対外公表

は控えたい」との意向を示している。市としては、クラブが主体となる事業であることを踏まえ、現時点での公表はクラブの判断を尊重する方針。一方で、市民・議会への丁寧な説明が不可欠であるとの認識を共有し、進捗が得られ次第、速やかな情報提供が行われるよう調整を続けている。越谷市にとってもクラブにとっても重要な事業であり、今後の動向を注視していく必要がある。

② 越谷サンシティの今後の方針づくりが本格化している

越谷サンシティの将来方針（案）づくりに向け、市は庁内での検討体制とスケジュールを整理し、本格的な協議を進めている。審議会からの答申を踏まえ、市の施策との整合性、審議プロセスの妥当性、参考意見の扱いなどを確認しつつ、政策的・財政的視点から事業の実現性を精査する体制が構築された。

また、既存施設の運営期間や閉鎖期間中の南部出張所・図書室のあり方についても別途検討部会を設置し、令和10年度以降の運営方針を10月政策会議に諮る方向で整理が進められている。方針（案）は令和8年12月議会での議決を想定し、年度内に庁内合意と会派説明が行われる予定。

③ 越谷市立学校の適正規模・適正配置の検討が本格化

越谷市では、人口減少と学校施設の老朽化を踏まえ、今後の小中学校の適正規模・適正配置について基本方針を策定するための検討が始まっている。児童生徒の良好な学習環境を守ることを大前提としつつ、学校が地域コミュニティの核として果たす役割、防災拠点としての機能、市の財政状況や公共施設マネジメントの観点を総合的に踏まえる必要があるとされている。

検討プロセスは段階的に進められ、令和8年度は現状把握と課題整理、適正規模の考え方の整理を行い、令和9年度に適正配置の方向性をまとめ、基本方針を策定する流れにある。その後、令和10年度以降に地域ごとの具体的な協議が始まる予定だ。

また、市民参加を重視し、児童生徒・保護者・教職員へのアンケート、PTA懇談会、市内13地区での対話の場、パブリックコメントなど、多様な意見を反映する仕組みが設けられている。

さらに、教育委員会や政策会議、関係課長で構成される検討委員会など、庁内横断の体制で議論が進められている。（5月19日・火曜日）